

株式の状況

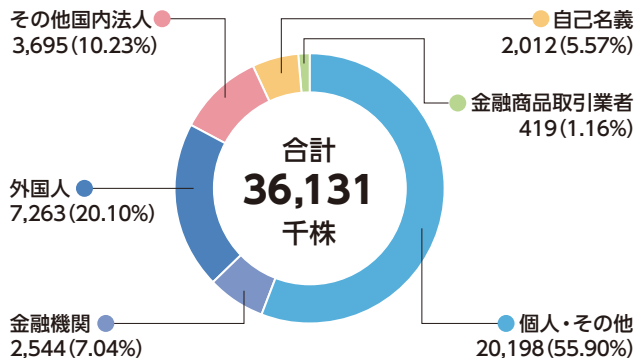
(2017年9月30日現在)

発行可能株式総数……………80,000,000株
発行済株式の総数……………36,130,796株
株主数……………10,055名

株式分布状況

(2017年9月30日現在)

(単位:千株)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当 3月31日
※ なお中間配当を行う場合の基準日は9月30日
(その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。)

単元株式数 100株
公告方法 電子公告により行います。
<http://www2.funai.co.jp/jp/investors/koukoku.html>
ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
株主名簿管理人/
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先/
各種お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)
〔受付時間9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)〕
ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

船井電機株式会社

〒574-0013 大阪府大東市中垣内7丁目7番1号
<http://www2.funai.co.jp/>



証券コード:6839

第66期 第1・第2四半期

FUNAI通信

2017年4月1日~2017年9月30日

代表取締役
執行役員社長
船越 秀明

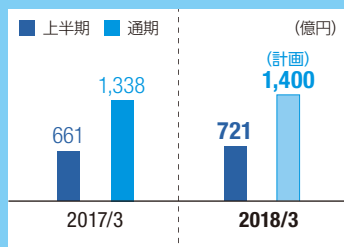
株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
第66期第2四半期(4-9月)の連結決算が確定しましたので、
営業の概況とともに今後の施策などについてご説明します。

ハイライト

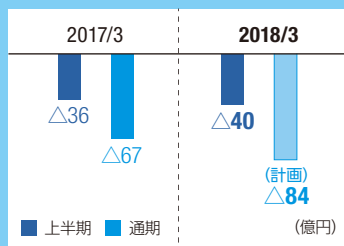
■ 売上高

DVD関連やインクジェットプリンター、インクカートリッジの売上が減少しましたが、液晶テレビやBD関連の売上が増加したことにより、前年同期比9.1%の増収となりました。



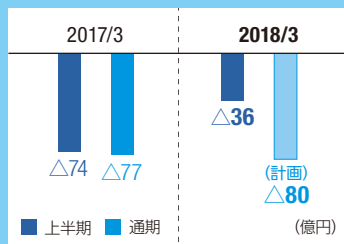
■ 営業利益／損失

北米市場における液晶テレビの価格競争激化をはじめ、メモリなど部材価格の高止まりが収益を圧迫したことなどから、営業損失を計上しました。



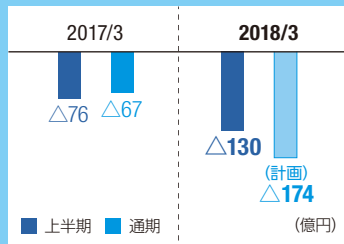
■ 経常利益／損失

前年同期の為替差損に対し、当期は為替差益を計上したため38億円改善しましたが、36億円の経常損失を計上しました。



■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益／損失

フィリピンの当社グループ事業用資産など、収益性低下に伴う特別損失を計100億円計上した影響などもあり、前年同期比54億円の損失増となりました。



将来の見通しについての注意／開示情報のうち過去の事実以外の将来の業績に関する予想及び見通しについては、作成時点で入手可能な情報をもとにした仮定及び見通しを前提としており、リスクや不確定な要因を含んでいます。実際の業績は、経済情勢、市場環境などの変化により、見通しとは大きく異なる場合があります。

Topics

電気自動車ベンチャーと資本業務提携

2017年11月、当社は小型電気自動車のベンチャー企業である株式会社FOMM(フォーム、本社：神奈川県川崎市)と資本業務提携契約を締結しました。

FOMMの電気自動車は小型仕様のため、地球環境への負荷低減に貢献することが期待されています。

当社は本提携により、今後急速な需要拡大が見込まれる電気自動車事業にて、アライアンス企業との協業によって事業領域の拡張と業績向上を図るとともに、環境・社会貢献への取り組みを通じて共通価値の創造を目指します。

株式会社FOMM Webサイト <http://fomm.co.jp/>

お知らせ

創業者 船井哲良のお別れの会へ 多数の参列者にお越しいただきました



創業者の船井哲良が7月4日、肺炎のため満90歳で他界しました。8月24日に行ったお別れの会では親交があった財界人や取引先関係者など約900人が参列され、60年を超える経営者人生を振り返りつつ、故人との別れを惜しまれました。

2017年6月よりスタートしたヤマダ電機におけるFUNAIブランドテレビ独占販売は、ヤマダ電機山田昇会長と旧知の間柄であった故人が強力に推し進め、実現したプロジェクトです。その遺志をしっかりと受け止め、今後もヤマダ電機との提携関係を一層深めてまいります。

なお、創業者としての経営哲学や語録、エピソードなどを収めた船井哲良公式Webサイトもぜひご覧ください。

<http://funai-tetsuro.com/>

V字回復へ向けて、組織再編・減損処理などの構造改革を実施しました。

当上半期(2017年4-9月期)の業績について

部品の高騰や北米での価格競争激化により計画は未達となりました。

北米市場における取扱製品(定番機種)数の増加、及び国内市場におけるFUNAIブランド製品の新規投入によって、液晶テレビやBlu-ray Disc関連の売上が伸びたことから、前年同期比では増収となりました。しかしながら、液晶パネル価格の下落が想定よりも遅れたこと、メモリなどの部材価格が高騰したこと、さらに北米において液晶テレビの販売競争が激化したことなどから、計画比では大幅な減収・減益となりました。

この結果、当上半期の売上高は721億円(前年同期661億円)、営業損失は40億円(同36億円の損失)、経常損失は36億円(同74億円の損失)となりました。

また、固定資産の減損処理を実施したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は130億円(同76億円の損失)となり、前年同期より大幅に損失が増える結果となりました。

当上半期の取り組みと成果について

外部環境に対応するため北米の組織再編や減損処理を実行し成長へ向けた布石を打ちました。

期初に掲げたプリンターなど「OS事業見直し」の方針については、不採算製品の縮小や米国研究開発子会社の改編に組み、赤字幅を縮小させました。

「海外販売子会社の黒字化」については、北米販売子会社を統合し組織再編を実行しましたが、部品価格高騰によるコスト増や販売促進費の増大などが収益を圧迫しました。

「AV事業の拡大強化」については、計画は未達ながら前年同期比において売上が増大しました。主要顧客である米国ウォ

ルマート社との強固な関係を維持する一方、国内におけるヤマダ電機向けFUNAIブランド製品についても、計画を上回る堅調な販売推移が見られました。

これらの取り組みに加え、外部環境の激変に対応するために減損処理を断行し、V字回復に向けた構造改革をさらに推し進めました。

当下半年から来期に向けた施策について

V字回復を実現し持続的な成長を目指します。

既存事業では、店舗型販売中心のウォルマート社におけるネット販売ビジネスの強化・増収を図るとともに、今後大型テレビの需要に対応するため、メキシコ工場の供給体制を整えます。さらに、ウォルマート社との良好な関係を保ちつつ、その他の大手量販店にも販売網を広げます。国内では来秋に予定している4K対応有機ELテレビの投入などラインアップを強化し、FUNAIブランドのさらなるシェア拡大を図ります。

新規事業については、既存ビジネスの資源を活用したB to Bビジネスに活路を見いだします。来期以降の業績への貢献を見据えたさまざまなプロジェクトが目下進行中です。また、アライアンス企業との協業による電気自動車関連事業やマイクロフルイディスク技術の応用展開など、将来の事業の柱となる新規事業の立ち上げに向けて積極的に取り組んでまいります。

株主の皆さまには、当社グループの事業にご理解を賜り、今後とも変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。